

令和4年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立東綾瀬中学校 校長 清野 正

1 学校教育目標

- ① 自ら学び、すすんで努力する生徒
- ② 他を思いやり、礼儀正しい生徒
- ③ 正しい判断力を持ち、心身ともに健康な生徒

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ① 学校図書館を活用し、読書の楽しさを教え、読書習慣と読書力をつけ、心豊かな生徒を育てる。
- ② 学校図書館の情報を主体的に活用し、自ら情報の選択ができる生徒を育てる。
- ③ 学校図書館を活用し、自分を表現できる生徒を育てる。

3 学校図書館の現状（令和3年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 16662 冊（蔵書基準冊数 13120 冊）／蔵書率 126%（元年度末 128%）									
	② 新規購入図書 623 冊／廃棄図書 806 冊／増減冊数 -183 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.2	4.1	10.3	9.4	11.4	6.5	4.1	9.8	3.9	38.5
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	② 開館時間：授業時、毎日昼休みから 17:00 まで									
	③ 生徒一人あたりの年間貸出冊数 5.7 冊（前々年度： 3.1 冊）									
	④ 学校図書館利用率 642%									

（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 17429 冊（蔵書基準冊数 13120 冊）／蔵書率 133%									
	② 新規購入図書 767 冊／廃棄図書 0 冊／増減冊数 +767 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.2	4.1	10.4	10.3	11.0	6.1	3.9	9.6	4.1	38.4
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：13:05～17:00（前年度からの変更 あり <u>なし</u> ）									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 5.2 冊（前年度末：5.7 冊）									
	③ 学校図書館利用率 1112%（前年度末：642%）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	① 本に親しみ、読書習慣を身につける。 ② 適切な図書資料の借り方、扱いができるようにする。 ③ 学校図書や新聞資料を使った探究活動を通して、問題発見・解決能力の育成を図る。									
今年度の成果目標					達成基準					
① 読書環境を整え、本に親しむ機会をつくる。 ② 学校図書館の利用の仕方やきまりを知る。 ③ 図書館の本や新聞等を活用した探究活動を行い、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。					① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増 ② クラス単位の学校図書館オリエンテーションを行う。 ③ 年2回の調べ学習を実施する。					
目標達成状況										
① 年間を通じた学級文庫の設置や朝読書の推進を行い、本に親しむ機会をつくることができた。 ② 4月に旧校舎でオリエンテーションを実施したため、新校舎での利用の出だしが緩やかだったが、最近では利用者が増えてきた。利用のマナーは徹底できている。 ③ 本よりも、クロームブックの利用が多かった。自分の考えをまとめる力が身についてきた。										

第2学年	① 様々な読み物を読もうとする意欲を育てる。 ② 課題によって学校図書やICT機器を使い分ける活動を通し、情報活用能力の育成を図る。
今年度の成果目標 ① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進めることができる。 ③ 調べ学習の手法とプレゼンテーションの基本を習得し、自己表現をすることができる。	達成基準 ① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増 ② 年3回の調べ学習を実施する。 ③ 年2回のプレゼンテーションを実施する。
目標達成状況	
① 学級文庫には図書委員の選書で9類以外のジャンルの本も設置し、主に朝読書で活用した。実質10分程度の短い昼休みで、移動に時間も要する学年の割には、こまめに利用する生徒が多かった。 ② 年5回の調べ学習を行い、本の利用もあったが、クロームブックの利用が多かった。 ③ 年2回のプレゼンテーションを行い、発表資料作成の技能が向上した。	
第3学年	① 読書をとおして考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ② 学校図書やICT機器を活用した探究活動を通して、情報選択能力や言語能力の育成を図る。
今年度の成果目標 ① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② FET(総合的な学習の時間)を利用し、自ら設定した課題に応じ、本や新聞、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、効果的に表現することができる。	達成基準 ① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増 ② 探究活動や発表の授業を年5回以上実施する。
目標達成状況	
① 前年度よりも主体的に学校図書館を利用する生徒や、放課後は学習をしている生徒が増加した。 ② 新聞記事の紹介は3年生の図書委員が良い視点で継続して行っていた。各教科での探究活動や発表は年8回以上実施でき、多面的・多角的に物事を捉える視点が身に着いた生徒が多く見られた。	

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果

取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 ① 既存の寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を2月中に完了させる。 ② 廃棄図書を精査、確定し、教員からの購入希望書と蔵書構成を念頭におき、新規図書購入計画を作成する。 ③ 全蔵書の3割程度について、「3桁分類」への転換作業を目指す。	①今年度の新規購入は教科担当の要望が3月まであり、3月上旬に登録完了した。 ②校舎・教室の引越しを念頭に置き、計画的に購入計画を作成できた。 ③図書館開架分の0～8類まで転換作業が終わり、順調に進めることができた。
【学校図書館支援員との連携・協働】 ① 学校図書館オリエンテーションの実施や図書館の開館等、支援員の積極的な連携・協働に取り組む。 ② 調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について積極的に支援員への相談や情報交換を行う。 ③ 校外学習の調べ学習等、時期に応じた連携や協働に計画的に取り組む。 ④ 学校図書館だよりや図書館内の本の展示・掲示の工夫・充実を図り、生徒の読書活動の向上に努める。	①1・3年は学校図書館オリエンテーションを実施し、2年生は適宜授業で本の紹介などを行った。支援員との連携は積極的に行うことができた。 ②授業で利用する教材や資料について、支援員との相談を密に行うことができた。 ③校外学習の調べ学習等、時期に応じた連携や協働に計画的に取り組めた。 ④校舎移転後も、学校図書館だよりや図書館内の本の展示・掲示の工夫・充実を図り、館内環境を整えることができた。

【その他】

- ① 年度末の貸し出し返却率が100%となるよう取り組む。
- ② 中央図書館の電子図書館利用サービスの呼びかけや「調べ学習用図書」の配送サービスの積極的な活用を図る。

- ①年度末の本の返却は、3年は100%だったが、1・2年は未返却の生徒がいた。
- ②中央図書館の電子図書館利用サービスは朝礼とクラスでの呼びかけで周知した。「調べ学習用図書」の配送サービスは活用ができなかった。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

今年度は5月の連休に仮設校舎への移転が行われた関係で、4月に全学年のオリエンテーションと学級ごとの一斉貸出しを行うことができず、貸し出し冊数が伸び悩んだ。また、昼休みはコロナ対応で給食の片付けに時間を要することも影響して休み時間が非常に短く、さらに校舎移転後は、教室とは棟の異なる図書館まで足を運ぶことが難しいなど、利用面では厳しい状況が多々あった。

しかし、図書委員会の活動や図書ボランティアの皆様のおかげで館内整備が進み、居心地の良い読書環境を整えることができた。図書館利用が難しい状況の中で、学級文庫をこまめに選書したり、本の紹介ポスターを廊下に掲示するなど、校内で本に親しむ読書環境を整えた。夏休み以降は利用者が徐々に増えてきた。他にも、区の電子図書の利用を呼びかけるなど、生徒の本へのアクセスの向上に努めた。

今年度の調べる学習コンクールは、2名の出品であったが、2名とも粘り強く作成し、全国コンクールで佳作と奨励賞をいただく結果となった。生徒はクロームブックの利用に慣れてきたので、本や資料の良さとネット情報の利点を理解した上で活用できる力を身につけていけるようにしたい。

ボランティアの中には、お子さんの卒業から10年以上経過しても継続して下さるベテランの方もおり、生徒・保護者・教職員だけでなく、地域の皆様に愛される学校図書館を運営していけると良い。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

図書ボランティアの皆様からのご意見には、「学校図書館には、本屋さんでは絶対に手に取らないであろう本が様々に並んでいる」、「色々な本が並んで楽しい」、「本の内容や種類の多さに驚きとワクワクを感じる」、「図書館の魅力に浸る喜びを頂いている」といった声が寄せられた。また、「旧校舎の木の板張りの床のもつ温かみと、図書館の雰囲気マッチして、とても居心地が良く、引越し前はお泊りしたい気分だった」というご意見もいただいた。校舎移転直後は白い壁が目立ったが、今では「仮校舎という名がもったいないくらい、きれいな上に素敵な館内になった」とのお言葉をいただいた。

「中学生と言う時代は人生で最も楽しく、力を蓄える時。これらの素晴らしい書籍を活用してほしい」とのメッセージをいただき、学校図書館は人のつながりや温かみを感じられる空間で、五感を刺激される豊かな本との出会いのある場所だと改めて感じた。

3桁分類の移行作業や装飾の他にも、「生徒への読み聞かせなどの交流もあるとより楽しいのではないか」というお考えの方もいらっしゃった。今後もアイデアをいただきながら連携をしていきたい。